



第37回定期委員会を開催！！

二〇二六年二月一、二日に仙台市秋保において定期委員会を開催し、一年間の方針を決定しました！

定期委員会は、構成員・委員23名中21名の出席、委任状2通での委員会成立のもと千葉地協の海後委員を議長に選出をし、出羽議長より挨拶

来賓として東日本本部武田書記長より挨拶をいただき、清水事務長から経過・方針・決算・予算の提起を受けて討論に入りました。

【海後議長あいさつ】

保線・電力の競合が多い。保守用車のルートに軌陸車での作業を計画している。責任者同士の打合せで何でも出来る。保線センターは何も気にせず認めている。事故を起こせば責任者の責任で負担は増大している。

【出羽議長あいさつ】

地協の現状を把握しながら東日本工務協定期委員会を継続していきます。JR職場は、フレックス制の導入や分岐器検

査などの見直し、派出の廃止や認定線区の拡大など働き方が変化した。キャビン体制の禁止の指示により業務負担になっている。

昨年3月、工務協と電協の若手交流会を開催してきた。工務協の若手2名を支援し仲間を増やす国労加入を呼びかけよう。高市政権の退陣を求め衆議院議員総選挙に奮闘して行こう。

【武田書記長あいさつ】

会社提案の新たな組織と働き方では、人事賃金制度の見直しの狙いと問題点について、東本部としての取り組み、大規模輸送障害による申入れ、組織の状況と課題が報告されました。悩みや不平不満の声を掴み改善を求めること、JR世代に労働組合の役割と必要性を訴え国労加入を呼びかけよう。

委員発言

昨年7月定期委員会を開催し

た。協力会社の傷害事故が多発している。人手不足と施工能力を超えた仕事を受注している。検修業務は、責任者と兼務し手元作業員無しの体制、レール探傷箇所が多

く処理に時間を要する。現行の労働条件では、キャリアスタップ制度へ希望しない人は多い。昨年と同様、倒木による運転支障が発生をした。JRは危険木を優先し伐採、残った木が倒木している。いわて銀河鉄道は、現場付近の木を全て伐採する。対策の違

JRの土技セは、組織再編から

3年経つが仕事が回っていない。副長と部下の関係が悪く女性社員が退職している。今後もJR社員との交流を続けていく。(盛岡) 先月、東鉄工業にエルダーで出向していた加藤さんが62才で亡くなった。線閉責任者で線閉を解除している時に倒れた。

レール傷が多く、継目板を取り付けることが困難、I型継目板を取り付けると言う金が無い。やれと言うからには、予算を確保すべきである。

全般巡視を夜間レールスターで行うが、レールや継目ボルト、マクラギの損傷は見えても、他は真っ暗で見えない。何のための巡視なのかなと思う。

1月に社友会の集会有り、若手から話を聞いた。要求があれば何でも話してくれと言われ、宿直勤務で4時間のマイナスとなることから通常勤務に戻して欲しいと訴えた。社友会の役員からは「そういう勤務やってみたい」と言われた。若手は「社友会は社員を黙らせる組織なのかな、何を言ってもダメだ、あきらめました。」

と言っていた。職場は悪くなる一方だなど感じる。引き続き話し込

みを続けて行きたい。(水戸) 発足して3年が経つがテーブル数が多く何をやっているのか分からない。技セと管理センター2つの決裁者がいる。若手は所長の顔色を見ながら仕事をして決裁をもらいに行っている。

高崎出張所エリアで助勤体制が生まれ、初めて行く所で線責を行う。渋川出張所エリア以外の上信電鉄や八高線の工事が契約され拡大している。協力会社は遠距離での作業で交通事故が懸念される。

吾妻線廃止阻止に向けた、クラウドファンディングの取り組み。熊対策を会社に申入れた。東鉄として社員には、熊スプレーと鈴は用意されている。他人事ではなく会社として危機感を持って実行して頂きたい。(高崎)



国労東日本工務協議会第37回定期委員会

工務協議会

東京の事務所に組合員は6名、毎月2回の執行委員会と月1回の全組合員参加の会議を継続している。

職場の慢性的な要員不足は解消されていない。4月の賃金制度見直しは、能力給は副長・マネージャーの評価で左右され、社員の差別化や働きがいが出てくる。若年退職は解消されないと危惧する。セカンドキャリアは、6名中5名が採用。

過半数代表者選挙に立候補し組合としての運動を訴えた。会社に対し選管設置・Web投票・棄権票の在り方の問題点については平行線であり、引き続き申し入れを行っていく。

1/16田町駅の大規模輸送障害は、鉄建建設下請会社の電気担当が1名で行い、き電停止の単純な取扱い誤りで片づけられている。ミスは無くなっていない、11年前に川崎事故があり繰り返されている。

少数ではあるが出来る限りの取組みを行い、組合員間の団結を固めて行く。(建設)

考えられない、単純なミスが続いている。仙建工業では、連続した分岐器割出しにより業務停止1週間の措置がされた。

冬季体制について申し入れを行ってきた。1月にENR除雪中に脱線、JR・仙建社員は手を出さず東洋機械が呼ばれ脱線復旧を行った。10条教育や訓練を受けていない東洋機械社員が行った点について、会社は特に問題はないと回答。雪の中での脱線復旧は大変であり実際に車輪を外して訓練することの重要性と乗組員の技術力向上を求めた。

JR保技セ2年目女性社員が1人夜勤で、Wキヤブを運転しマシンの壁に激突した。怪我は無かったが、会社として労働環境の配慮をすべきである。

工務協と電協は、組織減の中で団交の対応が困難になっている。(仙台)

職場は都市開発で、公募制により乗務員や営業系から来る方が多い。不動産事業で将来働いて行きたいと話している。今年のJR入社式は、G会社と

合わせて行うという情報がある。元職場の保線では、烏山線(認定線区)で著大軌道変位が発生したら列車を止める、昼間に余裕を持つて直せば良いと保技セ社員が修繕している。担当するP社も苦労している。

若手から将来的に先が見えない、いつ辞めても良いと連絡が来る。主任の若手がパワハラで嚴重注意を受けて退職した。現場に行く社員に調査を依頼したが、やつてこなかったことに怒ったらパワハラとなった。当り前のことを言ってパワハラになるなら、指導も出来なくなる。

若手とは、支えになる様に連絡を取り、つながりを持つようになっている。(大宮)

棒線化などの撤去、駅舎を市や町に寄贈する等、JR財産の償却が進んでいる。

ビルテックでは、予算が無いと駅の修繕を待ってもらったが12月にお金がつき、3月までに使い切れとなり社員が修繕箇所を見つけ工事発注するが、P社に負担が掛っている。

エルダー社員全員に、セカンドキャリアの面談を支店長が行っている。先取りで話が出ている。

支社ビルでは、鉄電が無くなり社員一人ひとりに携帯電話が持たされた。P社との連絡は携帯電話となり、休みや時間に関係なく対応させられる懸念がある。(千葉)

メカトロニクスの夜間工事立会で起きた事象について。立川駅のホーム上での作業で、配管を線路に落下させた。建築限界に支障しないことから別日に拾得すれば良いと考えた。本社の安パトからすぐに一報をと言われ、施設指令とJR技セに連絡。

JRから抑止して拾ってくれと言われたが指令から線閉を取っていなければ無理と言われ、別日に拾得を決めた。が、たまたま作業をしていた交通建設の軌陸車を停めて工務の仲間拾って貰った。本社は的確な判断と行動であったと評価した。状況説明など関係個所とのやり取りに3時間かかった。

職場では大騒ぎにならなくて良かった、若手にも勉強になった。と話題になった。(八王子)

「出羽議長集約」

2日間で11名の発言がありました。春闘では、国労として21,000円の賃上げ要求を会社に提出する。物価高騰で生活が苦しい現状を宣伝し、春闘を闘っている労働組合として若手に広めて行かなければならない。安全問題では、大規模輸送障害で首都圏が大混乱した。国労はこの間の合理化に対して、技術継承と人材育成をしっかりと行っていくべきと会社に主張してきた。安全安定輸送の重要性を訴え、職場の働き方や不平不満の声を掴み会社に改善を求めて行く。団体交渉は重要であり粘り強く仲間で行かなければならない。組織拡大では、いかに若手や働く仲間と結びつきを切らさず、つながりを持ち続けることが重要であることを確認できた。若年退職が増えている状況で、ぶれないで働き続けていくことが大事であることを訴えて行きたい。

セカンドキャリアでは、私たちが直面していく年代であり、65才を過ぎて働き続けられるのか、健康が一番の条件になってくる。2日間を通して、貴重な意見交換と情報共有、交流を深めることができた。当面する取り組みに職場から奮闘しよう!

